事業名：福島県浜通り地区環境放射線研修会

大阪大学　連携市町村：大熊町、飯舘村
現地拠点：相馬郡飯舘村草野小学校家庭科室

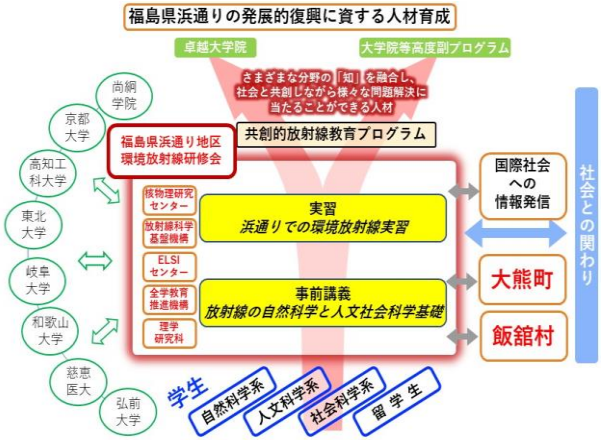
本事業のポイント・・・大阪大学を中心とした全国の大学の**文系理系、学年、国籍の枠にとらわれない幅広い背景**を持った**学生**が浜通り地区を訪れる。そこでは環境放射線を自分たちで測定することで福島の**実情を自身の体験を通じて理解**し、**地元の方と意見交換**によって**震災時の様子**やそこからの**復興の過程を知り**、放射線による直接的な影響から派生した**人文社会的問題を認識**する。さらに**学生間の議論**の中から復興に対して自分たちが**出来ることを考え見つける**。この事業では教員も含めて、教え・教え合いながら互いに切磋琢磨することによって、キャンパスの中だけで行われる従来型の学びでは実現できなかった**分野横断型の総合的な学びを構築**しており、すでに**5年間の実績**がある。

2021年度の活動内容・・・事前講義、現地実習および国際社会への発信を大きな活動内容とする。

事前講義・・・大阪大学で行われる**座学**
a. 放射線の**性質**について
b. 放射線は**どこにある**か
c. 放射線の**人体影響**について
d. 社会における**リスクの考え方**
e. 放射線の利用と**社会的影響**

現地実習・・・大熊町と飯舘村で行われる**体験型学習**
a. 土壌や葉の採取および空間線量測定する
b. 採取した土壌や葉中の**放射能の定量**する
c. 原発事故現場を視察し、事故の概要と現状を知る
d. 帰還困難区域を視察し、震災の爪痕を知る。
e. 地元の方々との交流から、**文化や暮らしの現状**を知る。
f. 学生間で議論をし、自らが**何をできるのかを考える。**

国際社会へ発信・・・学会発表
研修会を通じて学んだ事柄や研究データについてを、積極的に国内のみならず**海外にも発信**する。また、自分自身にどのような影響があったかを**講義や学生シンポジウムなどで発信**する。

人材育成目標・・・複合的な大規模災害などから復興を目指すためには、科学的に分析し理解するだけでは十分ではない。複雑に絡み合う**要因を紐解く想像力**と、新しい答えや考え方を**生み出す創造力**を働かせることが重要である。我々の事業における目標とは「**豊かな想像力を持ち、能動的に創造力を働かせ、問題解決に当たることができる**」人材の育成である。
取組みによって得られる成果・・・上述する**人材を育成し続ける**ことは、直接的間接的を問わず福島に対する問題意識を持つ人材が世に輩出し続けることになり、将来的に**福島の発展的復興に資する人材が世の中に涵養していく**事になる。

実施体制・・・
本事業を成功させるために、**多種多様な大学や機関との連携**が不可欠である。
そこで図に示すような体制を構築した。